

令和2年度 東京都立光明学園 学校経営報告

本校は、肢体不自由教育部門（小・中・高3学部）と病弱教育部門（小・中・高3学部）の2部門を2拠点（本校・分教室拠点）5指導形態（本校地域から通学生への教育、本校からの在宅訪問教育、寄宿舎を利用した通学生への教育、そよ風分教室での教育、分教室拠点からの病院訪問教育）を内包する新たなタイプの併置型特別支援学校として新規開校し、4年度末を迎えた。コロナ禍において、感染拡大防止に細心の注意を向けながら「**学びを止めない光明学園**」を経営の柱として、学園生、教職員、保護者の学びの機会を創出し経営目標の具現化に取り組んできた。新型コロナウイルス感染症予防対策に関する取組みは、年間23号発行となった通信「**健光の橋**」により発信し、学園生及び保護者への適時の情報提供を行うとともに安心・安全な学校づくりを推進した。本通信のWeb配信により、その記載内容が大いに参考となったとの声が関係機関、全国からも数多く寄せられ、先進的感染予防対策の開発と情報共有に寄与することができた。全国公開研究会では、テーマを「**今こそ 新たな学びの創造！ 光明学園の6つのアクション**」とし、新たな日常における本校の先進的取組みを初めてオンラインで発信した。参加者は310名を数え、本校の令和2年度の取組みへの期待値の高さが示されるとともに、参加者から大変高い評価を得た。

学校評価においては、評価平均がほとんどの項目において昨年度上回る結果となった。特に、学園生が相互交流できない中で、壁画制作やアートギャラリーへの作品展示など、「**アートでつながる**」取組みによって学園の一体感を醸成する成果が得られた。この取組みについては、学校運営連絡協議会でも高く評価された。コロナ禍においても、常に新機軸を打ち出し、特別支援教育をけん引する役割を担い、期待に応える学校経営を持続継続する。

（※以下、肢体不自由教育部門をS部門、病弱教育部門をB部門と表記する。）

1 今年度の取組と自己評価

“KOMEI-GAKUEN Bright hopes REIWA II”

■ 令和2年度の取組目標と方策 ■

（1）教育活動の目標と方策 （2）最重要・研究目標と方策〔数値目標を明示〕

最重要目標1 学園生が誇れる教育活動の展開

自己評価 ◎

数値目標 全関係者評価「学園としての良さを創出している」 $\geq 90\%$ ⇒ **95%**

方策 学園生としての誇り実感プロジェクト <主管：経営会議、学習指導部、経営企画室>

- 併置型学園としての両部門が相互理解できる教育活動を展開した
⇒アートプロジェクトを活用した共同の取組み、多様な専門性を両部門で相互活用した
- 学園一体感の醸成（開校3周年記念プログラム／壁画制作・光明ギャラリー（画廊）の設置・活用、光美・光書展開催と表彰を行った。
- 学園の良さ発信（HPやツイッターによる情報発信の活発化・リーフレット・掲示板他の広報充実）
学校通信「**光明の学び**」、「**健光の橋**」を20号以上発行、ツイッター発信500回以上、HP更新150回以上を実施した。
- 西棟・A棟校舎等の円滑活用と北棟完成を目指した計画的準備（新校舎建築委員会の設置）を行った。
- メモリアルコーナー開設に向けて開校期の経過や成果物の整理・記録・発信、母体校の記録整理を行った。

最重点目標 2 効率的・機能的な学校組織の確立による組織力向上

自己評価 ○

数値目標 教職員評価「ライフ・ワークバランスを踏まえた業務改革を推進している」 ≥ 90%

関連5項目の肯定的評価の割合 → 76%

方策 運営効率化プロジェクト：3年次 <主管：経営会議、総務部、教務部>

- ① 時間外勤務を各自が把握でき、自己調整できる機会を提供した。
- ② 働き方改革につながる業務改善提案の積極導入による効率化を推進した。
- ③ 主幹教諭・指導教諭・主任教諭等の職責を踏まえた業務目標の明確化（業務ミッション一覧の共有）を行った。
- ④ 主任教諭層を中心とした学部運営への移行に着手した。
- ⑤ 主幹級教員がリーダーとなったプロジェクト（総合企画）推進に取り組んだ。

最重点目標 3 専門性ある人材を活用した教育の充実

自己評価 ○

数値目標 全関係者評価「専門性ある人材の活用が教育充実に繋がっている」 ≥ 95% ⇒ 90%

方策 専門人材活用プロジェクト <主管：経営会議、学習指導部、研究研修部>

- ① S部門：学習指導アドバイザーによる継続的な授業者支援や専門家を積極活用した指導改善
- ② 両部門：講師を招聘した保護者学習会「言語・文字の獲得に繋がる『考える力』を育てる」の継続
- ③ 両部門：学校介護職員・病弱教育支援員の人材活用に基づく教員との協働（研修及び個別支援の実施）
- ④ 両部門：心理面の支援に重点をおく教育相談体制の充実（専門研修の実施、専門家による教育相談）
- ⑤ B部門：〈そよかぜ分教室〉外部人材を活用した入院学園生の余暇のQOL向上を目指した支援

最重点目標 4 授業力の向上 ☆個別学習等の「個に応じた学習指導」の力量形成

自己評価 ◎

数値目標 全関係者評価「個別指導が充実し、基礎学力が向上している」 ≥ 95% ⇒ 90%

方策 授業力向上プロジェクト <主管：学習指導部、教務部>

- ① 授業者支援会議で得たノウハウの蓄積による改善策共有・活用・発信（改善手法解説DVD、改善集）を行った。
- ② 専門家・指導教諭等を人材活用した指導実技型授業力向上研修を実施（全教員参加研修）した。
- ③ 指導に関する説明力の向上（授業参観ガイド作成・事前配布、読み手の学園生向け通知表の工夫）を図った。
- ④ 学習指導アドバイザーを人材活用した新学習指導要領への的確な対応（認知の向上と言語活動）を推進した。
- ⑤ 教材作成アドバイザーを人材活用した教材を工夫した指導を行った。

最重点目標 5 専門性発揮・向上による特色ある教育の推進

自己評価 ◎

数値目標 外部委員評価「専門性を発揮した教育活動が展開されている」 ≥ 90%

関連4項目の肯定的評価 ⇒ 94%

方策 専門性発揮プロジェクト <主管：教務部、学習指導部、支援部>

- ① 両部門：高等部学力調査の適正な作成及び過去問題の開示による受検生への事前対策を実施した。
- ② 両部門：将来に備えて、自ら学ぶ意欲のある学園生への補習（検定挑戦、PC研修）を実施した。
- ③ 両部門：タブレット型端末・遠隔ロボット活用やプログラミング学習等によるICT教育の充実を図った。
- ④ 両部門：図書環境とシステム整備、全校読書月間等の読書活動の企画・導入の準備がコロナ禍において進行が困難だった。 ⇒ 別掲1
- ⑤ 両部門：都指定「オリンピック・パラリンピックアワード校」としての次年度大会開催への参画準備を行った。

最重点目標 6 学園生が安心して学校生活を送れる生活指導体制の構築

自己評価 ◎

数値目標 保護者を含む関係者評価「緊急連絡の運用も含め防災面での改善が進んでいる」≥ 85%

関連5項目の肯定的評価 ⇒95%

方 策 安心・安全プロジェクト <主管：生活指導部>

- ① 通学外出支援（スクールバス・医ケア児専用車両等の安全運行、B：寄宿舍生の通学外出指導）を推進した。
- ② 合同避難訓練や宿泊防災訓練の充実と危機管理マニュアルの改訂、取組み成果の発信を行った。
- ③ 地域との災害時相互協力関係の推進（地域防災訓練等への協力）と取組み成果の発信を行った。
- ④ 安全の徹底及び万一の事故を教訓とした再発防止策（保護者への事故再現と説明、再発防止訓練）を徹底した。
- ⑤ いじめ・体罰防止、自殺防止教育推進委員会による校内状況の把握と予防対策の積極的推進を図った。

最重点目標 7 感染症予防の推進を含む安心できる保健体制と安全で美味しい給食を提供できる体制の構築

自己評価 ◎

数値目標 保護者を含む関係者評価「感染予防も含め、安心・安全な体制が構築されている」≥ 85%

関連3項目の肯定的評価 ⇒94%

方 策 保健・給食システム構築プロジェクト <主管：保健部>

- ① 新型コロナウイルス肺炎の感染予防を推進した（衛生的な環境の確保、緊急想定訓練、預かり支援、情報発信）。
- ② 都規定を踏まえた医療的ケアの的確で安全な実施及び他校・関係区教委等への協力・支援を行った。
- ③ 医ケアのある学園生専用通学車両の的確な運行を実施した。
- ④ 本校が策定に参画した「呼吸器管理ガイドライン」の的確な実施と実践発信及び改訂への協力を行った。
- ⑤ 個に応じた安全で美味しい給食提供と楽しい給食タイムを実現した。
- ⑥ 形態食の提供による個に応じた摂食指導の推進及びアレルギー事故防止の徹底を図った。

最重点目標 8 進路指導・地域支援・教育相談の充実

自己評価 ◎

数値目標 関係者評価 「進路指導や進路情報、地域支援の内容が伝わっている」≥ 85%

関連2項目の肯定的評価 ⇒90%

方 策 相談支援プロジェクト <主管：支援部>

- ① B部門：高等部募集対策の強化を含む都市型病弱校としての良さ創出と積極発信を行った。 ⇒ 別掲2
- ② 入学相談、地域支援、進路指導等の保護者や関係機関との情報共有化と学園方針に基づく支援を実施した。
- ③ 進路指導の充実〔個に応じた実習（遠隔を含む）指導、進学、就労、福祉施設等利用への丁寧な対応〕を図った。
- ④ 卒後支援と連携（卒業生の自立支援の為に校内販売機会提供や卒後情報の還流、同窓会支援を含む）を推進した。
- ⑤ 学校PTA及び各種別の広域PTA（全国・ブロック・都組織を含む）活動への協力を行った。

最重点目標 9 ライフ・ワークバランスを踏まえた、安全で魅力ある学校環境・職場環境の創出 自己評価 △

数値目標 全教職員の時間外勤務の縮減 <時間外勤務月45h超教員の解消> = 超過者0名

⇒約3割が月45h超過

方 策 環境改善プロジェクト <主管：総務部 教務部 学習指導部 経営企画室>

- ① 校内の美化（案内表示、廊下のゾーン表示、全校一斉整理デー）を推進した。
- ② 働きやすい執務環境の整備と業務改善（本校・分教室の職員室拡充と業務改善）を行った。

- ③ 職場環境の改善（出張販売店等のリフレッシュ資源の拡大）を行った。
- ④ 留守番電話の活用や時間外勤務時間数の中途状況提供による自己管理の徹底を図った。
- ⑤ 気持ちよく仕事のできる職場ルールの確立とマナーの向上を促進した。

最重点目標 10 研究目標：学園教育の魅力開発・パッケージ化・発信&提供

自己評価 ◎

数値目標 研究成果物提供者からの評価 「大いに役に立った」 ≥ 80%

⇒ 全国公開研究会への参加者310名、年間通じた感染症予防対策の情報提供依頼、学校見学依頼あり

方策 公開研究会も含めた研究開発発信プロジェクト <主管：学習部>

- ① 肢部門：学習指導アドバイザーを活用した認知を高める基礎学力向上の実践研究と成果を発信した。
- ② 両部門：高校準拠の入学考査問題作成及び過去問題開示による中3生への学習機会を提供した。
- ③ 肢部門：校内医療的ケアシステムを生かした他種別校や近隣区への医ケア支援等実践の成果を発信した。
- ④ 肢部門：授業者支援会議で得た改善ノウハウを基にした改善手法DVD・授業改善集の作成・発信した。
- ⑤ 両部門：ICT教育を推進した（1人1台環境の構築と活用、遠隔授業やプログラミング学習の工夫と発信）。
- ⑥ 両部門：アートプロジェクトの推進：芸術家を招いた作品づくり及び光明画廊設置・活用した。⇒ **別掲3**

【参照 別掲1・2・3の、令和2年度当初の計画】

別掲1：読書活動の推進

※新校舎西棟が本格運用となる2020を光明図書館元年とし、読書活動充実事業の研究指定校（3年次）として蔵書整備・貸出機能を強化し、読書活動が定着するように独自の全校プログラムを展開する。

- ① 両部門共用の北棟完成に向け、図書を増やし、図鑑や絵本に触れる機会を創出
- ② 外部専門家による「見て・触れて・聴ける」図書の環境整備
- ③ 図書貸出システムの確立と家庭持帰りの奨励
- ④ 梅中図書館や区立図書館の一層の活用及び都立図書館・国会子ども図書館等の団体貸出の導入

別掲2：本校B部門の特色化と発信

- ① 一人通学（帰舎・帰省）の対象拡大（中学部3年生の対象化）
- ② 自立のための「健康と生活を自己管理する力」の育成、寄宿舎での模擬一人暮らし<指導と環境整備>
- ③ 自律的に行動する力の育成、寄宿舎からの一人外出、公共施設や交通機関の利用<指導方法の開発>
- ④ 新学習指導要領に基づく「総合的な探究の時間」の展開。<社会資源探究を通じた自己適性理解、職業・進学理解、社会資源情報の活用、将来設計に関するキャリア学習開発>
- ⑤ 高等部募集案内等作成と送付及びHP掲載、中学進路指導連絡会等での募集案内、関係機関への説明

別掲3：光明アートプロジェクトの推進

- ① 芸術家を招聘した作品づくり（PTAとの協力事業）の展開
- ② 光明画廊（西棟スロープに絵画の回廊設置）を活用した通学・分教室・訪問生作品の常設展示化
- ③ 第3回光美展及び学園生表彰の企画・運営
- ④ 第3回光書展及び学園生表彰の企画・運営

<光明学園教職員としての行動指針>

I 教職員個々の基本的行動指針 <経営会議、いじめ・体罰防止、自殺防止教育推進委員会>

① 全教職員として学園生の規範モデルとなる行動実践

⇒ 体罰根絶を大前提とした人権尊重の推進（クリーンデスクを含む個人情報保護の徹底）

② 全光明学園 作成するビジネス・コードを踏まえた学園教職員として誇りある行動実践

⇒ マナー（社会人・教育公務員としての理解と実践）

⇒ スピリット（学園の教育理念の理解と共有）

⇒ ルール（業務システム・ノウハウの共有と活用）

⇒ ライフ・ワークバランスを意識したビジネススタイルの確立

II 教職員個々が経営参画するための具体的行動指針 <経営会議・企画調整会議>

数値目標 教職員自己評価<自己申告書「4 能力開発」に具体的取組内容、達成度を申告>

方 策 各自で①～⑥をプランニングし、進行管理 <全員、共管：副校長（課長）>

① 教：若手等指導・改善力向上 ⇒ 授業者支援会議への指導者としての参画

教：経験者支援・助言力向上 ⇒ 授業者支援会議への支援者としての参画

② 教説明力向上（説明責任履行） ⇒ 授業参観ガイド作成・学園生向け通知表の工夫、ポスター発表

③ 教教科等の指導力向上 ⇒ 免許所持教科等に関する校外の研究授業・教科研修参加

④ 全担当業務に関する専門性向上 ⇒ 講習会等受講奨励（例：民間のスキルアップ研修）

⑤ 教進路指導・生活指導力向上 ⇒ PTA や部活動他地域活動に支援者として年1回以上参加

⑥ 全接遇力・対応力の向上 ⇒ 接遇・教育相談等のスキルアップ（講習受講他）

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 東京都特別支援教育推進計画（第1・2期）及び都教育施策への積極取組み

○働き方改革を更に進め、時間外労働時間の一層の低減を図る(継続)。

○新北棟職員室稼働時には機能性を備え、かつ、個人情報紛失を防ぐ新たなスタイルの什器と行動指針を導入する(新規)。

○拠点校として、都教委指定の医療的ケア事業（医療的ケア保護者付添い期間短縮化モデル事業）、情報教育事業を積極展開する(一部新規)。

(2) 専門性の向上に基づく教育指導の更なる充実

○進路指導の充実

肢体不自由教育部門：実態に即した教育課程の改善検討と令和4年度教育課程への反映。

社会変化と学園生の特性に応じた作業学習開発を行い、自立と社会参加の実現に向けた特別支援教育の展開に貢献するための情報を蓄積・発信する(新規)。

病弱教育部門：ドミトリでの健康教育、都市型病弱教育校の魅力を計画的・継続的に発信し、高等部募集活動を積極的に展開する(継続・再構築)。

両部門：中高生の進路希望に対応した「総合的な探究の時間」のフィールドワークでの学びを重視する(継続)。

将来設計に関するキャリア学習開発の一部は両部門の専門性を生かした合同開発とし着手する(新規)。

○自己肯定感の醸成と個性ある才能の発揮

両部門：読書環境の整備を基盤とした読書活動充実の再構築、アクティブラーニング視点を加味した調べ学習の展開、読書活動の拠点校となるべく研究開発展開と運営祖域構築。(継続・再構築)

全校：従来のスポーツ表彰・アート表彰・書道表彰に加え、読書表彰等を定例化していく(継続)。

○第4回全国公開研究会を到達点とした指導実践成果を一層発信する。(医ケア事業、遠隔教育を含む)(継続)

(3) 令和2年度学校経営報告及び学校評価に基づく対策

○専門人材を活用した指導充実

学習指導アドバイザー等を活用した授業者支援並びに保護者学習会を行う(継続)。

○緊急連絡体制の整備

感染予防時の対応にも活用できる緊急連絡システムの利用者層の拡大を図る(継続)。

(4) 人材育成の継続・充実

○今後の併置校運営を担うリーダー人材を育成する(教育管理職、4級職、主任教諭・派遣への選考挑戦)(継続)。

○主幹・主任教諭の人材活用と育成を推進する。(継続)

(主幹・主任ミッションリストの作成と、人事考課(自己申告)での活用公開)(継続)

○教員志望者応援講座及び初任者パワーアップ講座を開催して、将来の特別支援教育を担う若手人材を育成する。

(継続)

※ 各項目に関する関係者(外部委員、教職員、保護者)評価の詳細は、本校HPに掲載の「令和2年度 学校評価集計結果と今後の方針」、「学校評価 総括」及び「学校評価 児童・生徒評価 集計結果と回答」を参照。